

議事録

件名 教育編成委員会ミーティング

管理No 2

日時	7/13/2018
場所	東京服飾専門学校(カレッジカフェ) 豊島区巢鴨1-19-7
出席者	株式会社クレヨン 代表取締役社長 田中大資様 営業本部人事部マネージャー 山田 雄祐様 株式会社GO SOUTH 市川大輔様 株式会社ステップス 取締役 採用教育部長 塚田龍一様 ソーイングアサヒ株式会社 代表取締役 高橋英一郎様 有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田えりこ様 日本モデルエージェンシー協会 岩田佳典理事長 <東京服飾専門学校> 野間憲治 中川敬介 大滝秀一 古賀由紀夫 (伏見幸恵 大塚蘭)
欠席者	
概要	少子化の中で小中高は統廃合を繰り返し、専門学校や大学においては定員割れを繰り返し、経営譲渡や廃校になることも。その中で、理想的なカリキュラムが構築され、実践されているか、文科省仕切りのプログラムが用意され、企業と連携をとり、企業内で実際に行われていることを授業を通して教育していくことが必要であるとされている。そのための委員会を設置し、評価を受け、一定の基準を満たした学校について認可をする。専門学校のランク付け、評価をする上で良くない学校については認可が下りない。その中で、本校は、企業様に産学協同授業の面でご協力いただいている実績に基づいて、委員会を設置。ご意見を頂き、認可を受ける運びとさせていただけたらと考えている。
	①各科産学協同授業例(2017年実績)のご説明と新着情報 ■アパレル造形科デザイナー・パタンナーコース (株)クレヨン様 授業名:マーチャンダイジング 担当: 大滝2017年度と同様の内容にて進行中。 1.本年度は7/4東京本社に伺い、会社及びロイス・クレヨンブランドのストーリーやコンセプト、また、人事マネージャー・MD・デザイナー・パタンナー・生産管理の方々から業務内容や求められる人物像などのお話を伺う。サンプルや社内アトリエを拝見し、次シーズン(2018年F/Wのシーズン)テーマの説明と課題内容の説明をいただく。 2.学生は授業時間内に企画書を作成する スタイル画・アイテム画・素材・カラー展開・上代設定等 3.MD及び人事マネージャーの方々にご来校いただきご講演いただく。(9/19予定)学生が一人ずつ自己企画をMD宛にプレゼン。最後に総評をいただく。 ■アパレル造形科デザイナー・パタンナーコース、アパレル技能科テクニカルコース(有)ビーシーコスチューム様 3コース合同で9月よりスタート予定。

②他校との産学協同授業の実績

株ステップス様

他校とも企業研修などを行っているが、本校ほど学生と関わるような形のものはない。

株GO SOUTH様

インターンでいらっしゃる学生さんはいるが、産学協同は本校のみ。

ファッション業界は一見華やかに見えるが、ほとんどは大変なこと、苦勞すること。それをどこまで学生に体験(知って)もらうのか。

③インターンと産学協同授業

■その差とは一体何

・市川様 「リアリティ」の

インターン→その会社に入りたいことが前提。現実を見せることも大事。

産学協同→あくまで学生の授業の一貫。楽しい面や夢を与え、業界就職への希望を持って

も別
インターンの発祥は欧米。なかなか新卒は採らず、インターンで入り、マッチングすれば入社という、就職を見据えたもの。

産学協同は、可能であれば新しい価値や企画を生み出していく。今の教育に最新のものを落とし込んでいく。

株クレヨン様

先日、企業同士での会議があったが、9割がインターンを取り入れている。リアルな働き方を体験して入社するところと、人数を集めてグループワークを開催し、それをインターンシップとしているところと分かれる。後者が産学協同授業に近いと思う。

株GO SOUTH様

受け入れる企業側がどのようなスタンスで行うのか？

例えばビーシーコスチューム様は商品化に直結しているが、クレヨン様は疑似運営。ステップ様は直結しているが間接的。学生を受け入れるということは、人手が増えて助かるかもしれないし、邪魔になるだけかもしれない。どのようなスタンスでやるのが大事だと感じている。

(アパレル造形科について)

産学協同を通して、学校が学生をどう育てていってくれるかが、ぼんやりしているが1番だと思う。学生からなにかを得ることは、企業としては難しいこと。学生が良いものを作ってきたとして、それを商品にしてしまおうとは、なかなかならない。技術も知識も、学生には負けていないので、望むものはパーソナルな部分。

産学を経てアパレル業界に興味を持ったり、夢を抱いて育った人材が、いつか戻ってきてくれたら。

株クレヨン様

(ファッションビジネス科・アパレル造形科について)

学生のみなさんに、夢を持ってもらいたいという気持ちもある。ただ、それだけでは仕事にならないということもあるので、大変なことも知って欲しい。今年の役員面接では、現実的なことも聞いて、それでも頑張るつもりがあるかと確認した。昔に比べて、アパレルを希望する学生が減っているので、産学という授業を通して、アパレルを知ってもらえる機会が増えたのはとてもいい機会であると考えている。産学はあくまで授業。学生さんが学校で学ぶことに、できるだけ協力することができれば。あわよくばうちに来てもらえたらいいなと思ってやっている。

内容

⑤モデル業界の産学活動

J.M.A.A岩田様

去年、tfacの学生さんが1名、協会の事務所に所属。今年もすでに1名が所属。学校で教えている授業はクリエイトの部分。モデルはどちらかというとパフォーミングなので、産学という形が、直接結びつくかという微妙。ただ、協会の活動理念の1つとして、産学間のコラボレーションを色々してきたという考えがある。その動きの1つとして、経済産業省とジャパンファッションウィーク機構と組んで、ファッションウィーク東京に、新人モデルを出すという活動をしている。そこに、tfacの学生さんもオーディションを受けていただいた。

モデルが直接クリエイトの現場に関わることは無いが、今、モデルやタレントも多岐に渡ってきていて、落語芸術協会にご協力頂いてMCをやらせていただいたり。

自分のところで色々な制作(主に広告物)をしている会社が増えてきている。ママまでの様に、モデルを派遣するだけではない。そういうところは、学校さんと色々考えていけたら面白いと考えている。

⑥まとめ

進行中の企画、進行予定の企画についてはこのまま進行。

今後もなにかアドバイスなどがあれば、その都度頂く。

今、産学の中で、企業様へのメリットはあまり多くない。企業様の望む人材を育てるため、我々学校側が努力すべき余地は充分にある。

これから、商売の形がどんどんと変化していく。移り変わりの激しい中で、学生たちの持っている能力や発想を活用頂けるようなシーンがあれば、企業様への恩返しができ、本当の意味での産学の入り口に成るのではないかと考える。

添付資料	
決定事項	進行中の企画、進行予定の企画についてはこのまま進行。 今後もなにかアドバイスなどがあれば、その都度頂く。(⑥参照)
課題事項	・アパレル業界の裏側、現実をどこまで伝えるべきか？(③参照) ・産学協同授業の、企業側のメリットとは？(④参照)
次回日程	未定
特記事項	

	作成者
	大塚